高知の地名由来

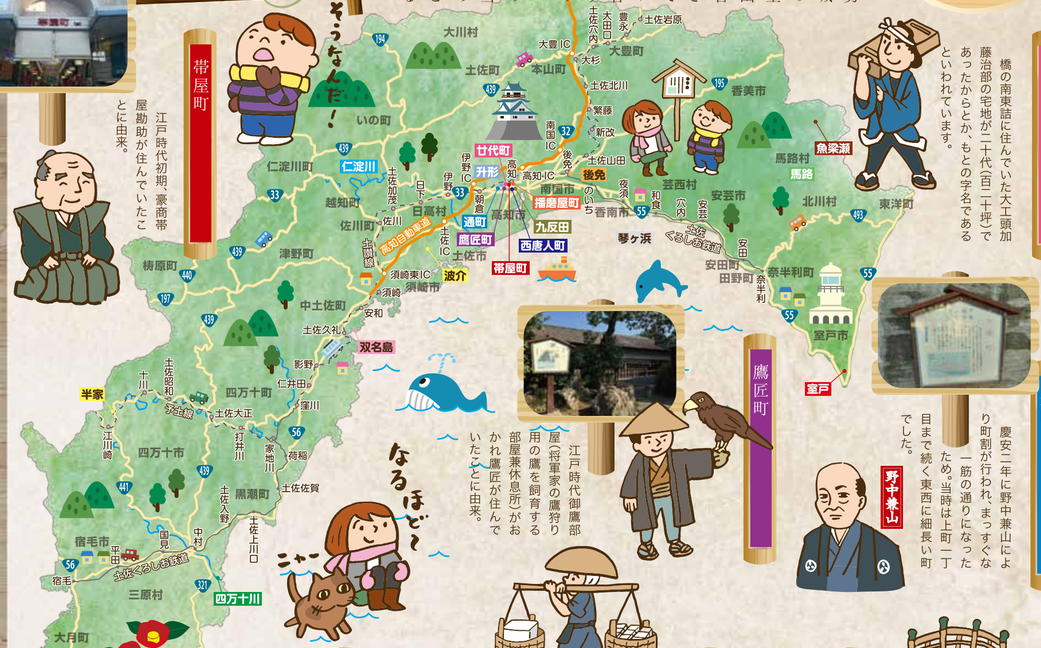
取材／写真＝
益 みさき　高芝 あずさ
寺岡 由梨　山本 基也
野村 春菜　新谷 洋二

南北を川に挟まれた地勢だったことから「河内山城（こうちやまじょう）」と名づけられた現在の高知城。度重なる洪水に悩まされ、「河内山城」から同じ呼び名の「高智山城」、その後「山」が省略され、あてられた字も変わって現在の「高知」になったという由来がありますが、県内各所のさまざまな地名も、掘り下げてみると興味深いものが数多くあります。

今回は、そんな県内各所の地名の由来にスポットを当ててみました♪ 皆さんのお住まいの地域にもきっとおもしろい由来の地名があるハズ?!

高知城下町名今昔

高知市中心地には、高知城築城400年事業の一環として、昔の暮らしや歴史、文化を感じることが出来る町名を後世に伝えようと、旧町名とその由来の乗った標識が設置されています。約90箇所にある標識を調査してみました。



甘代町

橋の南東詰に住んでいた大工頭加藤治部の宅地が二十代（百二十坪）であったからとか、もとの字名であるといわれています。

帯屋町

江戸時代初期、豪商帯屋勘助が住んでいたことに由来。

鷹匠町

江戸時代御鷹部屋（将軍家の鷹狩り用の鷹を飼育する部屋兼休息所）がおかれ鷹匠が住んでいたことに由来。

通町

慶安二年に野中兼山により町割が行われ、まっすぐな一筋の通りになったため。当時は上町一丁目まで続く東西に細長い町でした。

播磨屋町

江戸時代初期、豪商播磨屋とかつ屋の間の堀川に橋が架けられ、それに通ずる道筋が通称『ハリマヤ丁』とよばれていた。

九反田

江戸時代初期、田地がわずか九反といわれるほどの湿地帯であったことに由来。

西唐人町

七町とよばれる古町の一つ、文禄元年、豊臣秀吉の朝鮮出兵のとき、長宗我部元親により土佐へ連れてこられた朝鮮慶高道秋月城主朴好仁ら三十人が、豆腐商いをする特権を与えられて、鏡川大堤上に住んだことに由来する町名。

升形

城下町がつくられたとき、集まった兵士の数を図るために造られた四角い広場が、升形と呼ばれていたことから。

地名には、その土地の地形や歴史、伝承に関連し名づけられている場合もあり、その由来を知ることで先人の知識を感じ取ることもできます。高知の気になる地名を紐解いてみましょう。

後免

財政難の状態にあった江戸時代初期。藩政改革を行い土佐藩発展の基礎をつくった野中兼山が、領内の各地にて新田開発など様々な取組を行い、藩の財政を次第に好転させていきます。その際開発された地域の中に現在の後免町にあたる場所も含まれており、開拓地に来た者には税金・労役などの免除といった特権を与えて移住を奨励した為、「租税などが免除される地」という意味で「御免」という地名が生まれ、これが転じてのちに「後免町」になったとされています。

足摺岬

足摺岬の名前の由来には諸説ありますが、その一つに『空海が足をひきずりながら歩いた』という説があります。足摺岬にある金剛福寺への行程は札所間で最も長く現在のお遍路さんにとっても一番の難所となっています。

室戸

青年であった弘法大師が居住したと伝えられる岬の洞窟（御厨人窟（みくろど））。ムロ（僧の住居の事）に由来するといわれる説と室戸岬はとても「長い距離」、「遠い」所にあることから、ラテン語で「ｍｕｒｏ＝室戸」と名付けたという説があります。

双名島

昔大波に悩んでいた久礼の人々を助けようと、鬼ヶ島の鬼が二つの大きな岩を運んできたことから双名島と伝わっています。鬼といえば恐ろしいイメージですが、この伝説に登場する鬼は違い、自らを犠牲にしてまで苦しむ人々を救った鬼の雄姿は今でも久礼の人々に語り継がれています。

魚梁瀬

魚梁瀬は馬路村の奥にあるとても深い山の事です。由来は、鎌倉末期に平教盛が壇ノ浦の戦いに敗れ現在の魚梁瀬の深い深い山中に落ちてきた際に、川魚を取るためにヤナ（ヤナは漢字で「梁」と書き、川の両岸もしくは片岸から杭や石、竹などを用いて水流をすのこ状の台で堰き止め、魚の流路をふさいで捕獲する仕掛けのこと）を仕掛けたところ、それが川下に流されてしまいました。下流でそれを見つけた人が不審に思い、調べたところ、平家の落人平教盛を発見しました。そこから、ヤナが流れてきた瀬なので魚梁瀬と言われるようになったそうです。ちなみに、漫画家のやなせたかしさんは魚梁瀬とは全く関係ないようです。

馬路

荒野を開拓するとき、野鳥が笹草の段へ現れて作物を荒らしたり、飼馬を害したりしその際、足跡が一面に及んだので、「馬路」という地名が起こったと伝えられています。

琴ヶ浜

琴ヶ浜松原は、芸西村の海岸線一帯にかけての小高い海岸砂丘に広がる美しい松原で松林の姿が琴の形に似ている、また、渚で引き波中の砂の音が琴を奏でる音色にも似ているところから琴ヶ浜の名前が付いたといわれています。

半家・波介

高知県には八ゲと読む地名が二つあります。土佐市の波介川中流辺りにあるのが「波介」。山の端の湧水のあるところ」や「土砂の堆積したところ」というのが由来です。そして四万十市にあるのが「半家」。平家の落人が開いた村で「平」の上の「一」を下に移動させて「半」にし、半家村になったといわれています。『サザエさんん』では、家族で四万十地域を訪れる話がありますが、磯野波平が「八ゲ」の読みに激しくショックを受ける場面があります。

仁淀川

近年「仁淀ブルー」で一躍全国区になった仁淀川の名前の由来で有力なのはこの二つになります。

①川のアユを朝廷の贄殿（にえどの）に献上したため「贄殿川」と呼ばれ、そのにえどのが訛って「仁淀川」になったという説。

②平城天皇の皇子であった高岳親王が土佐へ立ち寄った際、淀川に似ているので仁淀と名付けたという説。

ごめんの軍鶏は人気急上昇中。是非食べてみたいですね！

四万十川

高知県の西部を流れる「日本三大清流の一つ」と呼ばれる四万十川の名前の由来は諸説あります。

①「四万川と十川が合体した」説

②「シ・マムタ＝はなはだ美しい」というアイヌ語説

③「約四万十の支流がある」説

④「四万石の木を十回流すことができる川」説 などがあり、現段階では④が最も妥当だと考えられているようです。②は言葉遊びで作られたそうですが、ロマンチックな感じがして素敵ですね。

SUMIYOUは、高知に住みゆう、人と街とのつながりを応援します。
本誌におけるご意見・ご感想等、お気軽に、どうぞ。
アパマンショップ　KOCHI HOUSE　http://www.kochihouse.co.jp/

アパマンショップ 高知中央店　info@kochihouse.co.jp
〒780-0870 高知市本町5丁目3−3
TEL 088−824−6811(代表)　FAX 088−824−6815

アパマンショップ 高知駅前店　ekimaeten@kochihouse.co.jp
〒780-0056 高知市北本町2丁目2−17
TEL 088−878−1122(代表)　FAX 088−878−1160

アパマンショップ 高知宝永店　houeiten@kochihouse.co.jp
〒780-0817 高知市中宝永町4−18
TEL 088−880−1033(代表)　FAX 088−880−1088

アパマンショップ 土佐道路店　tosadouro@kochihouse.co.jp
〒780-8037 高知市城山町198−1 レジデンス扇1F
TEL 088−821−7805(代表)　FAX 088−821−7806

アパマンショップ 高知インター店　interten@kochihouse.co.jp
〒781-0015 高知市薊野西町1丁目34−20
TEL 088−856−7275(代表)　FAX 088−856−7650

My one Culture vol.16

365 days calendar
【世界一周 絶景 日めくりカレンダー】

むかしからカラフルなものが大好きで、おねだりして買ってもらった36色の色えんぴつを眺めては空想にふける、そんな幼少期でした（笑）なのでこのカレンダーを見つけた時は「こんなに素敵な場所があったんだ！」と感動したのを今でも覚えています。

ちなみに中身は日替わり絶景写真とコメントの掲載。「自分の誕生日はどこの絶景？」「記念日は？」とドキドキしながら待つのも楽しいですし、ひょっとしたら旅行計画の手助けになるかもしれませんね♪

高知インター店　益 みさき

お客様へ一言
1人でも多くのお客様の心に残り、「次の引越しも益さんにお願いしたい」と言って頂けるよう日々精進してまいります！

スタッフのお気に入りをご紹介

押したりもんだりしない整体

手や指のツボをやさしくふれて頭蓋骨と体のゆがみを整える**「頭蓋リセット整体」**を融合した、他では体験できないオリジナルの整体法で施術します。特に頭痛・顎関節症・自律神経失調症でお悩みの女性に人気です。

【店舗のご紹介】
整体院 ゆるり
院　　長　前田 真太郎
営業時間　9:00〜18:00
定 休 日　水曜・日曜・祝日
住　　所　高知市葛島4-4-24
　　有沢マンション1階北
電　　話　088-874-3865
駐 車 場　有り
完全予約制
整体院ゆるり　検索
詳細はホームページを検索下さい！